

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	知的システム演習B(Exercises in Intelligent Systems B)	授業コード	C178201
担当教員名	赤星 哲也	科目ナンバリングコード	
配当学年	3	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	1
履修上の注意または履修条件	「知的システムB」を同時に受講すること。		
受講心得	ポータブルHDDを毎時間、必ず持参すること。		
教科書			
参考文献及び指定図書	<p>(書籍)</p> <p>「Rで学ぶ日本語テキストマイニング」 ひつじ書房 ISBN978-4-89476-654-9</p> <p>「言語研究のためのプログラミング入門」 開拓社 ISBN978-4-7589-2188-6</p> <p>「言語研究のための統計入門」 くろしお出版 ISBN978-4-87424-498-2</p> <p>「Rによるテキストマイニング入門」 森北出版 ISBN978-4-627-84841-2</p> <p>「みんなのPython 第3版」 ソフトバンククリエイティブ ISBN4797371595</p> <p>(Webサイト)</p> <p>「Python 2.7ja1 日本語ドキュメント」 http://docs.python.jp/2/</p> <p>「言語情報処理ポータル」 http://nlp.kuee.kyoto-u.ac.jp/NLP_Portal/</p> <p>「NLTK -- Natural Language Toolkit」 http://www.nltk.org/</p> <p>(月刊誌)</p> <p>「日経ソフトウェア」</p> <p>※NBU大学図書館・情報検索サービス「日経BP社記事検索サービス」を用いて閲覧可 http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/</p>		
関連科目	知的システムB、プログラミング基礎、アルゴリズムA、アルゴリズムB		

授業の目的	この科目は人間と同等の知能をコンピュータ上に実現することをめざす「人工知能」技術の各種アルゴリズムの内、特に、人間の「ことば」をコンピュータで扱う「自然言語処理」に関する基礎知識、並びに応用技術についての理解を深めるためにパソコン演習を通して学修します。
授業の概要	自然言語処理の要素技術の内、特に、「形態素解析」の技術を使ったテキスト処理方法についてのパソコン演習を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：LinuxOS(Ubuntu)の導入 プログラミング演習に必要なLinuxOS(Ubuntu)を各自で用意したポータブルHDDに導入します。また、この科目の目的、到達目標、学習内容、学習方法(受講心得)、成績評価方法について説明します。	配付資料
第2週：プログラミング言語の基本 この授業で使用するプログラミング言語について、基本的な文法を解説します。	配付資料 レポート提出・解答例
第3週：テキスト処理(1) 様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第4週：テキスト処理(2) 様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第5週：テキスト処理(3) 様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第6週：テキスト処理(4)	

様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第7週：テキスト処理(5) 様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第8週：テキスト処理(6) 様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第9週：テキスト処理(7) 様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第10週：テキスト処理(8) 様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第11週：テキスト処理(9) 様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第12週：テキスト処理(10) 様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第13週：テキスト処理(11) 様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第14週：テキスト処理(12) 様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第15週：テキスト処理(13) 様々なテキスト処理方法をパソコン演習を通して学びます。	配付資料 レポート提出・解答例
第16週：	
授業の運営方法	(1)授業の形式 「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式
	(3)アクティブ・ラーニング
備考	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	授業に積極的に取り組む。
【知識・理解】	「知的システムB」で学修した知識を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	課題を期限内に提出する。
【思考・判断・創造】	パソコン演習を通して、テキスト処理の方法を習得する。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点	20点	
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。		20点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		20点		
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	[Sレベル]課題が期限内に提出され、到達目標を満たしている。 [Aレベル]課題が期限内に提出され、到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]課題は期限内に提出されなかったが、到達目標を満たしている。 [Cレベル]課題は期限内に提出されなかったが、到達目標をほぼ満たしている。
発表・その他(無形成果)	欠席、遅刻を含めた受講態度を評価します。 授業内のパソコン演習にもとづいた課題を出題しますので、欠席・遅刻はしないこと。